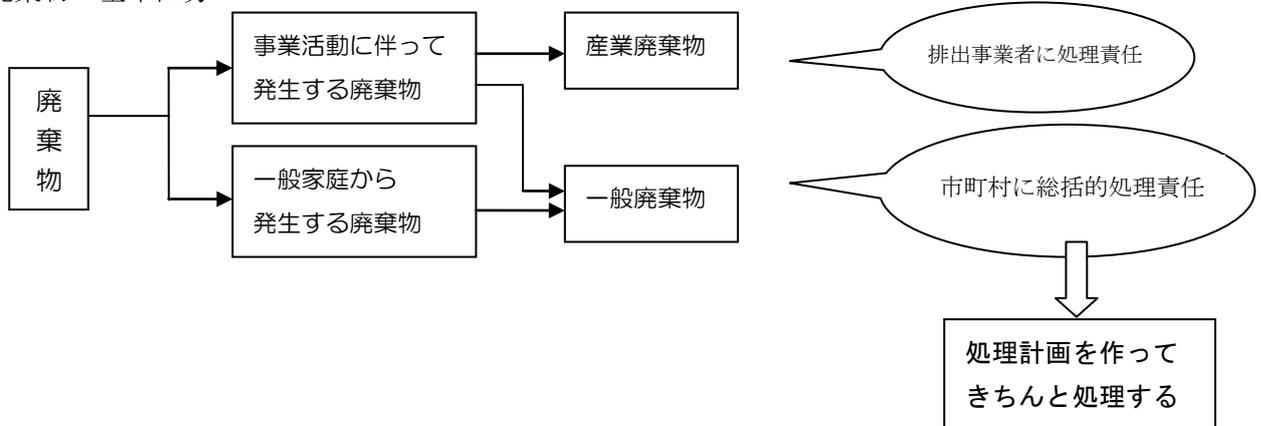


## 岸和田市一般廃棄物処理基本計画（ごみ編）の改定について（説明用資料）

- I 基本計画策定の趣旨や目標年度について
- II 現在の岸和田市のごみ処理の現状について
- III 今後の目標や方針、ごみ排出量の予測について
- IV まとめ

## I 基本計画策定の趣旨や目標年度について

廃棄物の基本区分



岸和田市の処理計画

- ・平成 10 年 3 月 策定 → 平成 13 年 5 月 見直し → 平成 25 年 4 月 見直し
- ・今回は、岸和田市・貝塚市・岸和田市貝塚市清掃施設組合の三者で目標期間を整合させる。  
平成 40 年度を目標 （平成 35 年度を中間目標） →素案 2P

## II 現在の岸和田市のごみ処理の現状について

- ・人口、事業所数とも減少傾向 →素案 7～8P
- ・家庭系は 12 種類の分別 →素案 10P
- ・ごみ処理の基本 資源化できるものは極力資源化  
 資源化できないもので燃えるものはクリーンセンターで焼却  
 焼却した後の灰やセトモノなどは埋立 →素案 11～15P
- ・ごみの排出量 → 全体としてはやや横ばい。  
 家庭系は横ばい、事業系は増加傾向 →素案 16～19P
- ・リサイクル率 → やや低下 →素案 20P
- ・最終処分率 → 横ばい →素案 21P
- ・大阪府下の市町村と比べると平均的な状況 →素案 23～25P

## 岸和田市のごみ処理の課題

### ◎事業系ごみの増加

1 事業所あたりの排出量が多い。事業所数が減少、でも排出量は増加。 →素案 28～29P

### ◎リサイクル率の低下

集団回収とプラスチック製容器包装の排出量の減少 →素案 29P

### ◎最終処分率

いつまでも埋立できるかは分からない。少なくとも現状の率のキープを。 →素案 29P

### ◎分別区分数

現行の 12 分別 → これ以上増やすと…

・経費の増加

・分別方法がさらに複雑になり、出し間違いも増える →素案 29P

## Ⅲ 今後の目標や方針、ごみ排出量の予測について

◎基本目標 「継続的に発展可能な循環型社会システムの構築と維持」

3 R の実践

→素案 31P

◎基本方針 1 市民・事業者・行政の協働によるごみ減量化・資源化の推進

2 環境負荷の少ない適正処理・処分の実施

→素案 32P

・目標を達成するためには、市民・事業者・行政がそれぞれの立場で役割を果たすことが重要。

→素案 33～34P

★人口の推計 平成 40 年度には 185,265 人になると推計する。

★ごみ量の推計 無理のない実現可能な計画とすることを前提する。

→素案 38P

平成 40 年度までに…

・家庭系ごみ 【原単位】 1.5 g / 人・日の減少 【排出量】 6.8%の減少

・事業系ごみ 【原単位】 0.1t / 事業所・年の減少 【排出量】 4.0%の減少

・リサイクル率 0.4%の増加

・最終処分率 現状維持

ごみ総排出量としては 約 5.5%の減少を目標とする。

→素案 39P

## 今後の施策

現行の収集運搬体制や処理・処分方法については、今後の状況により必要に応じて見直す。  
減量化・リサイクル化を促進するため、啓発や指導を強化していく。 →素案 45～55P

・家庭系 … 分け方・出し方に関するパンフレット作成やアプリの導入

・食品廃棄物 … 食品ロス対策や食品リサイクル推進のため調査・指導・啓発

・事業系 … 業態や業種に応じた適正なごみ処理・リサイクル情報の提供と指導の徹底

#### IV まとめ

- ・家庭系

平成 22 年度の普通ごみ有料指定袋制導入以来、分別についてはほぼ出尽くした感。  
これ以上増やすと複雑で分かりにくくなる。

- 減量・リサイクル化の精度を高め成熟させる  
分かりやすく効率的な制度に  
方策の検討や指導・啓発  
まずごみを出さない工夫を

- ・事業系

指導・啓発の強化  
廃品回収業者や再生活用業者等を活用して減量化の促進  
事業者関係各団体との協力  
処分手数料のあり方に対する検討

以上の点を踏まえ、今回の改定は着実に進められるような目標設定とする。